

令和4年度
自己点検・評価報告書



名古屋市立大学
医薬学総合研究院
大学院医学研究科・医学部

—令和4年度 自己点検・評価報告書—

目次

はじめに.....	1
第1章 分野・部門別研究活動実績	2
基礎医科学講座	臨床病態病理学101
統合解剖学..... 3	薬理学.....104
機能組織学..... 5	細菌学.....108
神経生化学..... 7	免疫学.....110
細胞生化学..... 11	ウイルス学.....113
細胞生理学..... 13	病態モデル医学.....117
脳神経生理学..... 16	社会復帰医学講座
病態外科学講座	整形外科学.....119
消化器外科学..... 18	リハビリテーション医学.....138
腫瘍・免疫外科学..... 31	精神・認知・行動医学.....142
(R4.9～呼吸器・小児外科学)	脳神経外科学.....147
腎・泌尿器科学..... 35	生殖・遺伝学講座
心臓血管外科学..... 55	産科婦人科学.....152
乳腺外科学..... 58	新生児・小児医学.....159
小児泌尿器科学..... 61	分子医学講座(脳神経科学研究所)
感覚器・形成医学講座	認知症科学.....164
視覚科学..... 66	グリア細胞生物学.....170
耳鼻咽喉・頭頸部外科学..... 70	神経発達症遺伝学.....171
加齢・環境皮膚科学..... 78	神経毒性学.....174
口腔外科学..... 84	神経発達・再生医学.....176
形成外科学..... 94	認知機能病態学(寄附講座).....183
病態医科学講座	生体総合医療学講座
実験病態病理学..... 96	消化器・代謝内科学.....186

呼吸器・免疫アレルギー内科学.....	204	公衆衛生学.....	292
循環器内科学.....	212	法医学.....	298
腎臓内科学.....	224	医学・医療情報管理学.....	300
神経内科学.....	229	医学・医療教育学.....	301
血液・腫瘍内科学.....	233	次世代医療開発学.....	303
麻酔科学・集中治療医学.....	240	医療安全管理学.....	309
放射線医学.....	254	臨床感染制御学.....	310
地域医療教育学.....	259	病院経営学.....	314
地域医療学(寄附講座).....	262	医療人育成学(寄附講座).....	316
地域包括医療学(寄附講座).....	265	病院中央部門	
臨床薬剤学.....	266	中央臨床検査部.....	319
先進急性期医療学.....	271	中央放射線部.....	322
救命救急医療学.....	274	緩和ケアセンター.....	323
医学教育・社会医学講座		医療デザイン研究センター.....	325
環境労働衛生学.....	277		

第2章 教育活動実績.....326

令和5年度自己点検・評価委員会名簿

医学研究科 自己点検・評価報告書の公表について

平成 11 年に改正された大学設置基準により、自己点検・評価の実施と結果の公表が義務化されており、その結果については学外者による検証が努力義務化されています。そのため、令和 4 年度の名古屋市立大学大学院医学研究科における自己点検・評価報告書を作成しましたので、ここに公表いたします。令和 6 年度からは新たに策定された第四期中期目標・計画が始まりますが、第三期中期計画以上に研究推進、研究力強化が大きな目標として謳われています。今回の報告書は昨年と同様に「教育」「研究」に関わる内容について纏めており、各講座、各教員がこの 1 年間の業績・成果を見返す機会としていただければと思います。

名古屋市立大学医学部は、令和 6 年に開校から数えて 81 年となり、これまでに約 5,300 名の卒業生を輩出しています。令和 3 年 4 月に名古屋市立東部・西部医療センターの 2 病院、令和 5 年 4 月に名古屋市立緑市民病院（みどり市民病院）、名古屋市厚生院附属病院（みらい光生病院）が医学部附属病院に加わり、全国国公立大学医学部の中で最大規模の附属病院群を擁することになりました。令和 7 年 4 月には名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院の医学部附属病院化が計画され、同年夏頃には救急災害医療センターが桜山キャンパスに開棟する予定で、ここ数年で名古屋市立大学病院群が飛躍的に大きくなります。名古屋市および名古屋市民から期待される①地域に根ざした手厚い医療の提供、②臨床研究推進、③研究成果の社会への還元、に応えるべく各病院の特徴・専門性を生かすとともに連携体制を強化することで地域医療に貢献していく必要性がますます高まっています。

令和 4 年に改訂された医学教育モデルコアカリキュラムに基づく教育カリキュラムの改変を現在進めており、令和元年に受審した日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価の際に指摘された診療参加型臨床実習の充実等の課題についての改革も実施しています。また、令和 5 年 4 月には研究力強化を図るために大学院博士課程の定員を 52 名から 100 名に増員するなど、「教育」「研究」において制度面から変更を加えています。令和 7 年 4 月には医学部と看護学部を統合すると同時にリハビリテーション学専攻が新たに設置することで、より充実した多職種連携教育を通して優秀な医療人を輩出していきます。今回の報告書には「診療」部分は盛り込んでおりませんが、名古屋市立大学病院群に対して地域から期待される内容について各教員が認識を深め、地域社会に対する貢献度をさらに強化していきたいと考えています。

最後になりますが、本報告書の作成にご協力を頂きました教職員の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

令和 6 年 2 月

名古屋市立大学大学院医学研究科長 高橋 智